新品種候補（2012 年 12 月作成）

－－－

表1　主要形質の調査結果　その２

	北海17号	アレス	評価基準	備考
耐病性 2)	中	中	総合判定	根釧農試耐寒性特性検定試験
耐寒性 3)	やや強	中	総合判定	根釧農試耐寒性特性検定試験
菌核病罹病程度	2.3	2.7	1:無・軽微ー9:甚	北海道3試験地、17調査平均
うどんこ病罹病程度	1.9	2.8	1:無・軽微ー9:甚	北海道5試験地、18調査平均
モザイク病罹病程度	1.5	2.2	1:無・軽微ー9:甚	北農研8調査平均
粗蛋白質	18.1	18.9	乾物中%	北農研2?4年目11分析平均
採種性	1.2	1.1	kg/a	北農研２年間平均

2)雪腐病等、3)耐凍性等を評価

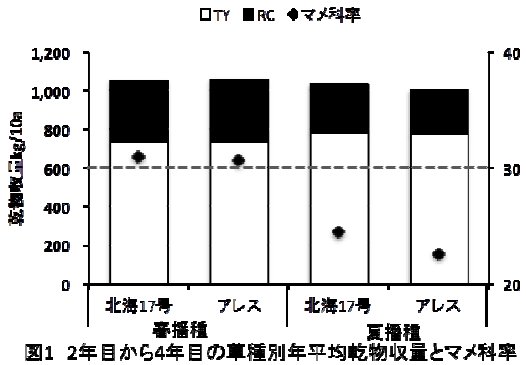

図1　2年目から4年目の草種別年平均乾物収量とマメ科率
春播種は北農研、天北、北見、ホクレン
夏播種は北農研、畜試、ホクレンの平均値
点線はマメ科率30%を示す

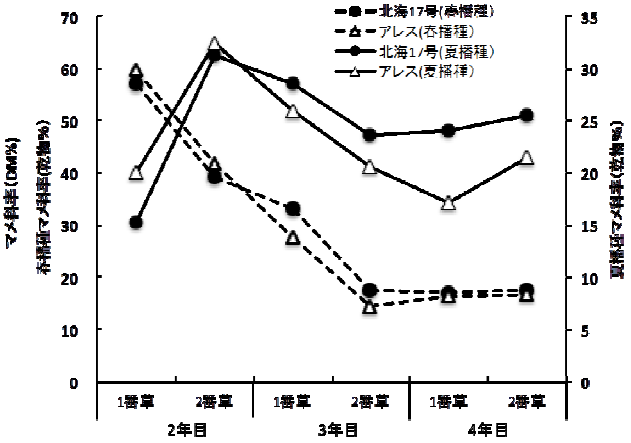

図2　マメ科率の年次・刈取番草毎の推移(春播種は北農研、天北、北見、ホクレン、夏播種は北農研、畜試、ホクレンの平均値)

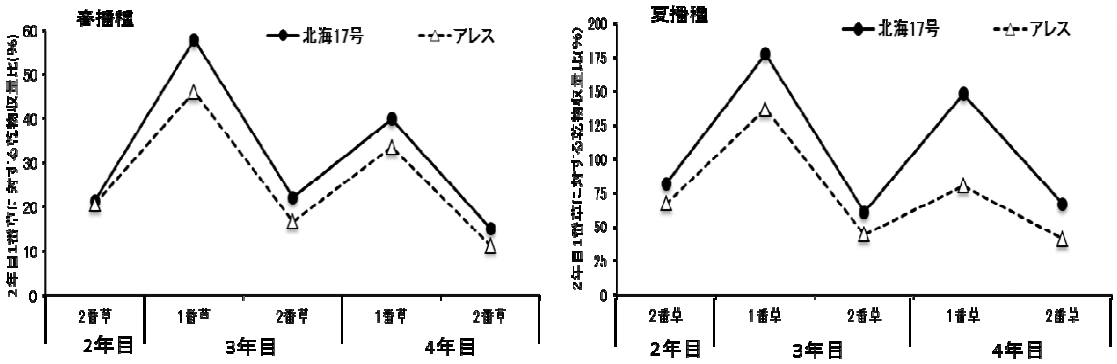

図3　2年目1番草を基準としたアカクローバ乾物収量の推移(北海道内全試験地平均)

３．優良品種に採用しようとする理由

アカクローバは土壌適応性や定着性が高く、道内の基幹マメ科牧草で、マメ科牧草の特徴である蛋白質等の供給源として、また固定窒素の土壌還元による窒素肥料節減の効果も期待できる。「北海 17 号」は国内育成では初めてとなる晩生系統で、刈取適期幅の拡大により近年急速に栽培面積を伸ばしているチモシー中生品種との混播適性が高く、耐寒性等にも優れることから、北海道内の高品質粗飼料の生産に貢献する。

４．普及対象地域および普及見込み面積

全道一円、33,000ha(10 年間で 100t の提供見込み)

５．市販種子の配布見込み　市販種子の供給開始は平成 30 年度を計画

６．栽培上の留意点

チモシー中生品種との混播に利用する。アカクローバ晩生品種とチモシー中生品種の混播に共通した留意点であるが、1 番草収穫時は倒伏を避けるため、刈り遅れにならないように努める。また、夏播種は各地域の推奨播種時期までに行い、それ以降の播種はアカクローバの定着を損なう可能性があるので避ける。